

連携・協働のカ・タ・チ

令和2年5月20日発行 福島県教育庁会津教育事務所



愛マスク・プロジェクト

～広がる! 感じる! 地域との繋がり～ 湯川村立勝常小学校6年生

湯川村立勝常小学校の6年生14名は、今年度最初の家庭科の授業で「わたしたちの生活」について話し合いました。新型コロナウイルス感染拡大の恐れについて話す中で、それぞれの家庭でマスクの数が少なくなってきている状況を確認しました。店頭でも簡単に買えない状況も踏まえ、このままでは各家庭でマスクが底をつくのも時間の問題だということ課題として捉えました。



【マスク作りに取り組む子供たち】

「お世話になってきた周囲の人たちへの感謝と下級生への思いやりの詰まった布マスクを作りたい」という願いから、活動名を「勝常小6年愛マスク・プロジェクト」と名付けました。

子供たちの家庭から、簡単なマスクの作り方についての情報提供、布やゴム等の寄付があり、教職員のサポートを受けながら、子供たちは、休み時間もマスク作りに没頭し、自宅に持ち帰って仕上げてくる子もいるなど、意欲的に活動に取り組みました。

話し合いが進む中で、子供たちは、家庭科の教科書に布マスクの作り方を見つけ、「これなら自分たちにも作ることができるのではないか」と思いました。そして、自分たちの作った布マスクを配布することで全校生の身を守る手助けができ、感染予防の意識が高まっていくのではないかと考えました。

子供たちの意見から、総合的な学習の時間と連動してマスク作りを行い、校内だけでなく、湯川村の老人ホームのお年寄りや幼稚園児等にプレゼントすることにしました。



【地域の方とのマスク作り】



【幼稚園児へ手作りマスクの贈呈】

5月7日(木)の登校日に集まったマスクの数は、585枚でした。5月12日(火)に、6年生代表児童が、ゆがわ幼稚園と湯川村保育所に足を運び、手作りマスクを贈呈しました。

この活動を通して、子供たちは、惜しみない協力をしてくださる保護者や地域の方々への心の温かさに触れることができました。中には6年生の活動に感動し、自分の仕事を休んでまで、学校に出向いてマスク作りを教えてくださいとくださる方もいました。子供たちは、地域の方々との繋がりを強く実感し、湯川村の沢山の人のために、自分たちが作ったマスクで感謝の気持ちを伝えたいという思いを強くしました。

この実践から学ぶ Point!



授業における学びから課題意識を持った子供たちが、`自分たちに何ができるか、という視点で課題解決の意欲を高め、自分たちが考えた「愛マスク・プロジェクト」に取り組みました。このように、自分たちが考えた活動を実践することを通して、`地域にかかわる実感、を持ち、地域貢献の素地を培うことにつながります。